

P01 平成26年度検定版中学校社会科教科書の掲載地図にみられる表現上の問題点

Errors in Representations of Maps Used in Current Version Social Studies Textbooks in Japanese Junior High Schools

近藤 暁夫 (愛知大学)
KONDOH Akio (Aichi University)



2016年 人文地理学会大会

中学校社会科教科書に掲載されている地図には内容や表現の問題が多い

発表者は、2015年の人文地理学会大会にて平成22年度検定版(2015年度刊行版)の中学校社会科教科書に掲載されている地図に、国境線や島嶼の位置など、基本的な事実レベルでの誤りが多数みられることを指摘した。2016年度からは、平成26年度の教科書検定を通過した新版の教科書が中学校の教育現場に出されているが、残念なことに地図の誤りにはほとんど改善がみられない。発表者の発信力の至らなさを痛感するとともに、このような教科書で学ばなければならない生徒たちに申し訳ないと思う。

そこで、改めて新版の中学校社会科教科書の掲載地図にみられる表現上の誤りについて報告とともに問題提起する。なお、前回の発表では社会科教科書のうち地理分野の教科書と地図(地図帳)は対象外としたが、今回再検討したところ、遺憾なことにこれらにも地図の誤りが散見されることから、本報告ではこれらも取り上げる。結論を先に述べれば、中学校の教育現場で使用されている全社会科学教科書21冊のうち、発表者の主観と眼力の限界が含まれた評価であるという前提つきであるが、明確に「合格」といえる教科書は1冊(地図自体が少なくて検討が十分至らないものを含めれば2冊)のみであった。

中学校社会科教科書掲載地図の検討と評価の方法

教科書ならびに地図の評価は、2015年の発表と同様に、次のように行った。①方位記号や距離尺が描画されていない地図、赤系統と緑系統の色使いで色覚障害の生徒が判読できない恐れのある地図などは「改善の余地がある地図」とし、1枚につき-3点の得点とする。これは内容の誤りではなく改善点が指摘できる水準の問題なので、必ずしも発行者側が対応する必要はないが、地図表現技術の最新成果を教育に還元するという観点では善処が求められる。②改善の余地が重複していたり、明白な事実誤認が図中にみられたりする地図は「深刻な問題のある地図」とし、1枚につき-5点とする。この地図は明白な問題があるといえ、訂正・差し替え等の対応を求めたい。③位置・領域等、地図の根幹といえる内容に明白な誤りがあり、地図として成立していないものは「致命的な誤りのある地図」とし、1枚につき-10点とする。これらは、地図として成立しておらず教育上の効果が認められない(税金と資源の無駄遣い)だけでなく、その誤りの内容が国際問題(自国や他国の国境線を間違えていたり、酷い場合は国ごと抹消している)になる恐れも指摘されることから、早急な謝罪と訂正が求められる。

上記基準で、現在教育現場で使用されている中学校社会科教科書全21冊の全掲載地図2,941枚を判定し、得点化した。その上で、教科書の総掲載地図数(問題のある地図を含むすべての地図)を1枚1点で得点化した上で、これから問題のある地図のマイナス点を引き、各教科書の「得点」を算出した。その点数や地図の誤りの内容をもとに、各教科書の評価を行った。もちろん、地図の配点は発表者による恣意的なものであり、これが絶対完全の評価であるとはいえない。また、地図の評価には発表者の主観が入っており、問題点を誇張していたり、誤りを見過ごしてしまっていたりすることもある。それでも、地図表現をもとにした教科書の点数化と定量的な比較はこれまでほとんどなく、一定の問題提起にはなるものと考えている。

地理的分野教科書の地図評価(第1表)

2016年度現在、4社版の教科書が刊行されており、どの教科書でも概ね1頁に1枚の地図が掲載されている。全社の教科書に致命的な誤りのある地図が掲載されており、教育現場に用いることに支障がある。特に、教育出版版では全教科書中最多となる23箇所(箇所)の致命的な誤りがあり、到底実用に耐えられる水準にない。地理教科書の致命的な誤りとしては、河川・湖沼・島嶼等の自然物を描画していないもの、(日本の認定している)国家を抹消しているもの、国内の領域を間違えているものなど、地理の基礎知識レベルのものが目立つ。例として代表的な「致命的な誤りのある」地図を、掲載(拡大・縮小を加えている)するので参照されたい。

第1表 各社の中学校社会科地理的分野教科書に掲載されている地図の枚数とその評価

出版社	検定年	発行年	総頁	地図数 ¹⁾	改善の余地 ²⁾	深刻な問題	致命的な誤り	得点 ³⁾	前版 ⁴⁾	シェア ⁵⁾	前版シェア	総合評価
日本文教出版	2015	2016	281	236	22	2	2	140	157	4.2%	6.3%	対応が必要
帝国書院	2015	2016	280	221	31	1	2	103	157	41.7%	31.7%	対応が必要
東京書籍	2015	2016	295	274	38	2	3	120	92	42.9%	47.9%	対応が必要
教育出版	2015	2016	279	272	38	3	23	-87	-51	11.2%	14.1%	収拾不能

- 1) 描画された主題図のほか、地図や絵図の画像、鳥瞰図、地図として判読できる衛星写真や空中写真も枚数に加えている(第2表以下も同様)。
- 2) 地図の問題については、2016年8月現在すでに出版社から訂正申告がされている地図もあるが、教科書刊行時点(4月)で評価(第2表以下も同様)。
- 3) 地図1枚で1点、「改善の余地のある地図」1枚で-3点、「深刻な問題のある地図」-5点、「致命的な誤りの地図」-10点で計算(第2表以下も同様)。
- 4) 2011年検定・2015年発行版の同一社教科書の地図を、今回と同様の方法で採点したときの総得点(第2表以下も同様)。
- 5) 2015年検定版の教科書シェアは「内外教育」6463号、前版の教科書シェアは「内外教育」6125号による(第2表以下も同様)。

発表時はここに
図版がありました

日本文教出版(地理)154頁
・モンテネグロとコソボがセルビアに併合されている。

発表時はここに
図版がありました

帝国書院(地理)130頁
・1868年に八郎潟が干拓済み。
東京書籍(地理)132頁
・南島嶼と沖ノ島が排他的経済水域の中心にない。

発表時はここに
図版がありました

発表時はここに
図版がありました

東京書籍(地理)143頁
・エニセイ川が描画されておらず、バイカル湖からレナ川が流出している。

発表時はここに
図版がありました

教育出版(地理)14頁
・東西ドイツが統一されているなど、よくわからない地図。
教育出版(地理)15頁
・モンテネグロとコソボが消滅。

発表時は
ここに図版が
ありました

発表時はここに
図版がありました

教育出版(地理)33頁
・アンガラ川がなく、バイカル湖からレナ川が流出している。

発表時は
ここに図版が
ありました

教育出版(地理)44頁
・バイカル湖やバルハン湖が消滅。
教育出版(地理)211頁
・三重県と滋賀県が合体して一つの県になっている。

発表時はここに
図版がありました

歴史的な分野教科書の地図評価(第2表)

新規参入の学び舎版を含む8社版が刊行されている。地理教科書と同様に全社版に致命的な誤りのある地図が掲載されており、全体として惨憺たる状況にあることは2015年度版教科書と変わらない。特に、自由社版と育鵬社版では全掲載地図の過半に何らかの問題点が指摘でき、地図の描画能力に根本的な力量不足が認められる。自由社版を得点で下回る学び舎版を含めて、「収拾不能」と判定せざるをえない。それにしても、実在の島嶼や国家を地球上から抹消するような「歴史の捏造的行為」を教科書本文中や年表で行えば、当然暴挙として糾弾されるのに、なぜ地図の形でならばそれが平気でまかり通るのか、不思議でならない。

第2表 各社の中学校社会科歴史的分野教科書に掲載されている地図の枚数とその評価

出版社	検定年	発行年	総頁	地図数	改善の余地	深刻な問題	致命的な誤り	得点	前版	シェア	前版シェア	総合評価
東京書籍	2015	2016	287	119	13	0	2	60	64	51.0%	52.8%	対応が必要
教育出版	2015	2016	274	131	23	1	3	27	28	14.1%	14.6%	対応が必要
日本文教出版	2015	2016	295	149	16	3	6	26	-14	9.4%	12.6%	回収を検討すべき
帝国書院	2015	2016	268	144	12	2	7	28	23	17.9%	14.1%	回収を検討すべき
清水書院	2015	2016	287	123	28	4	7	-51	-5	0.8%	2.1%	回収を検討すべき
自由社 ¹⁾	2015	2016	288	87	36	9	4	-106	-152	0.0%	0.1%	収拾不能
学び舎	2015	2016	323	164	24	7	18	-123	未刊	0.5%	未刊	収拾不能
育鵬社	2015	2016	290	123	39	11	16	-209	-193	6.3%	3.7%	収拾不能

1) 2015年の検定通過後、2016年の正規発行版までに多くの地図が自主的に差し替えられている。

発表時はここに
図版がありました

発表時は
ここに図版が
ありました

発表時は
ここに図版が
ありました

発表時は
ここに図版が
ありました

東京書籍(歴史)巻頭資料
日本の世界遺産の位置図だが、主要四島と奄美・沖縄本島(琉球)の西に存在しない島が描画されている。長江が切断。小笠原諸島も海中に没している。距離尺が必要。
自由社(歴史)97頁
・沖縄本島(琉球)の西に存在しない島が描画されている。長江が切断。
学び舎(歴史)213頁
・老姥と九州が海中に没している。
育鵬社(歴史)111頁
・本州が海中に没している。遼東半島の描画が雑。距離尺が必要。

公民的分野教科書の地図評価(第3表)

7社版が刊行されているが、地図の掲載は10頁に1枚程度と他の教科書に比べて明らかに少ない。このうち唯一、日本文教出版版には致命的な誤りを含む地図はなく、地図自体の少なさに不満はあるものの、教育現場での使用に耐えうる。それに対して、自由社版と育鵬社版では、掲載地図の過半に何らかの問題点が指摘でき、少なくとも地図表現の点からみれば教科書として実用に耐えない。

第3表 各社の中学校社会科公民的分野教科書に掲載されている地図の枚数とその評価

出版社	検定年	発行年	総頁	地図数	改善の余地	深刻な問題	致命的な誤り	得点	前版	シェア	前版シェア	総合評価
日本文教出版	2015	2016	249	30	7	0	0	9	14	11.3%	14.1%	採用の対象になる
東京書籍	2015	2016	247	35	8	0	1	1	11	58.6%	57.0%	対応が必要
帝国書院	2015	2016	232	21	7	0	1	-10	1	10.4%	8.9%	対応が必要
教育出版	2015	2016	248	17	0	0	2	-3	1	12.7%	13.2%	対応が必要
清水書院	2015	2016	216	20	5	0	3	-25	-9	1.4%	2.7%	対応が必要
自由社	2015	2016	224	19	8	0	3	-35	-39	0.0%	0.1%	収拾不能
育鵬社	2015	2016	248	19	6	0	4	-39	-13	5.7%	4.0%	収拾不能

地図帳の地図評価(第4表)

2社版が刊行されている。帝国書院版は、少なくとも発表者の眼力では明確に訂正が必要な地図を確認できなかった。この技術力を他の教科書にも生かしてほしい。東京書籍版は前版からは大幅に改良したものの、未だ地図帳に求められる水準からすれば恥ずかしい誤りが散見される。

第4表 各社の中学校社会科地図帳に掲載されている地図の枚数とその評価

出版社	検定年	発行年	総頁	地図数	改善の余地	深刻な問題	致命的な誤り	得点	前版	シェア	前版シェア	総合評価
帝国書院	2015	2016	176	390	37	1	0	274	284	96.2%	97.3%	問題なし
東京書籍	2015	2016	184	347	21	1	5	229	77	3.8%	2.7%	回収を検討すべき

発表時はここに
図版がありました

東京書籍(地図)7頁
・エニセイ川が描画されておらず、バイカル湖からレナ川が流出している。ミズリ川やエニセイ川も描画されていない。

発表時は
ここに図版が
ありました

東京書籍(地図)22頁
・1980年ごろにモルドバが独立している。

発表時は
ここに図版が
ありました

東京書籍(地図)183頁
・大淵村が湖に戻っている。

子どもたちを愛するならば最高の地図を渡してほしい

会場に教科書の実物を持参するので、ここで例示した以外の地図とその問題点については、直接現物にあたっていただきたい。この現状を問題と捉えるのか、もし問題だとするならばどのようにすればいいのか、諸賢のご議論を待ちたいが、最後に、一言だけ発表者の感想を述べることをお赦し願いたい。これらの教科書の地図からは、どうしても「自分たちの考えうる最高の教科書を子どもたちに渡そう」という制作・出版・検定者の愛情と誠意を感じることができない。教科書の地図表現に最低限必要とされるべき誠意と力量を持たぬ者が、子どもたちへの教育に責任を持てるのだろうか。地図と教育に人並みの情熱を持つ一人の人間として、ただ悲しい。

● ご質問等は 〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 愛知大学文学部地理学専攻
E-mail: akiok@vega.aichi-u.ac.jp

近藤 暁夫 (愛知大学・准教授)

